

ポスター | 1-10 心筋心膜疾患

ポスター

心筋炎③

座長: 桃井 伸緒 (福島県立医科大学)

Sat. Jul 18, 2015 10:50 AM - 11:20 AM ポスター会場 (1F オリオン A+B)

III-P-021~III-P-025

所属正式名称: 桃井伸緒(福島県立医科大学医学部 小児科学講座)

[III-P-024]急性または劇症型心筋炎が疑われ、当院入院となった9例の後方視的検討—診断と予後について—

○平井 健太¹, 重光 祐輔¹, 福嶋 遥佑¹, 栄徳 隆裕¹, 栗田 佳彦¹, 近藤 麻衣子¹, 馬場 健児¹, 大月 審一¹, 笠原 真悟², 佐野 俊二², 塚原 宏一³ (1.岡山大学病院 小児循環器科, 2.岡山大学病院 心臓血管外科, 3.岡山大学病院 小児科)

Keywords: 心筋炎, ECMO, 心筋生検

【背景】心筋炎の診断には他疾患の除外が必要となるため、詳細な精査が必要となる。また迅速なECMO適応の判断、導入は良好な予後につながる可能性がある。【方法】2004年1月1日から2014年12月31日までの11年間で、急性または劇症型心筋炎が疑われ、当院入院となった9例につき後方視的に検討を行った。【結果】年齢は2ヶ月～13歳11ヶ月(中央値8ヶ月)。他院からの転院が8例、直接来院が1例であった。症状は発熱、哺乳不良、嘔吐など非特異的であり、心拡大や心収縮能低下、不整脈から心筋炎が疑われた。当院入院後の精査で大動脈縮窄症と診断した症例が2例あり、いずれも同日緊急手術を施行した。その他の7例は急性または劇症型心筋炎と暫定診断した。7例のうち全例で mPSL pulse, IVIGを施行し、5例でECMO管理、1例で完全房室ブロックのため temporary pacingを要した。1例は、入院時の心エコーで心尖部のバルーン状拡張・無収縮を認め、心電図の経時的変化、心筋シンチなどから、たこつぼ型心筋症と最終診断した。3例はECMO導入後も頻拍発作(AT, VT)の管理に難渋し、1例で左心耳切除、2例でAblationを施行した。左心耳切除を施行した1例は、心筋生検で心筋炎は否定的であり、tachycardia induced cardiomyopathy(TIC)と最終診断した。予後としては、劇症型心筋炎の1例は、心停止後にECMO導入となったこともあり重篤な低酸素性脳症を呈し、遠隔期に心機能低下し死亡した。それ以外の症例は神経学的後遺症なく、心機能も正常化した。【考察】心筋炎と他疾患との鑑別には、心電図、心エコー、心筋生検などが有用であり、総合的に診断する必要がある。詳細な精査と迅速にECMO導入を行うことで、1例を除き良好な予後が得られた。